

1 令和8年度 小城市立三里小学校 学校経営構想

(1) 学校経営の基本理念

三里校区は、少子化・高齢化が進んでいる。同時に牛津川遊水地整備事業（90ha・容量250万m³）により、上右原・下右原・山崎の3地区が移転対象となり、代替地が用意されるものの人口流出の要因となっている。さまざまな要因で地域コミュニティの存続が懸念される状況にある。

そのなかで本校は「地域の中の学校」としての役割を果たすべく、様々な地域連携活動に積極的に取り組みながら、学校運営を進めている。なかでも「三里ふれあい自然塾」主催の自然体験活動を「本校ならではの教育」と位置づけて、一部を教育課程の中に組み入れて積極的に取り組んでいる。

学校現場は、小学校学習指導要領の完全実施と同時に、働き方改革の推進が求められている。つまり、新時代の教育に向けて持続可能な学校運営体制の構築が求められている。併せて危機管理体制のさらなる充実と適時見直しも必要である。また、令和8年度から「学校運営協議会（コミュニティスクール）」を設置し、地域とともにある学校をより強固なものへと推進していく。

地域連携におけるより教育効果が高まる内容への見直しを図り、学校が保護者・地域住民・関係機関と適切な役割分担を図り、「**すべては子どもたちの笑顔のために**」という共有の目的に向かい連携していく体制を構築していく。そして、「学校における働き方改革の推進」にも取り組み、業務改善と意識改革を進め、やりがい・働きがい・生きがいをもって本年度の本校教育課題に真摯に向き合える職場環境を創っていききたい。

① 学ぶ環境を創る

学校は、教科の学びはもちろん、人としての生き方や人間関係を学び、自己実現に向けて成長していくための場である。そこで、私たち教師は、常に研修と実践を重ね、授業を通して、児童が主体的に学び、成長していく環境（人的・物的）を創る努力をしていきたい。

② 高い志をもってたくましく生きる力を創る（3つの㊦）

めまぐるしく変化する社会の動きに主体的に対応し、たくましく生き抜く力を育むには、児童一人一人に課題意識をもつようにし、挑む経験をさせることが大切である。勇気ある挑戦（㊦チャレンジ）の過程を通して、苦しみや喜び、達成感や感動体験を味わわせ、自立への道を歩ませたい。自ら考え、機会（㊦チャンス）をつかみ、新しい自分への変容（㊦チェンジ）をめざす。

③ 地域の中の学校を創る

学校は、地域のニーズに応え、地域の理解と協力を得て、特色ある学校教育を創造していかなければならない。そのために、学校から保護者や地域に広く情報を発信すると共に、地域の人材やもの、声を積極的に取り入れて、合意形成を図り、地域と共にある学校を創っていく。

(2) 学校教育目標とそのとらえ方

学校教育目標

「ふれあい チャレンジ きらりかがやく三里の子」の育成

ふれあい

自分のまわりの人や自然環境、地域社会などに興味・関心を持ち、積極的に関わりながら、そのよさに気づくことができる。

チャレンジ

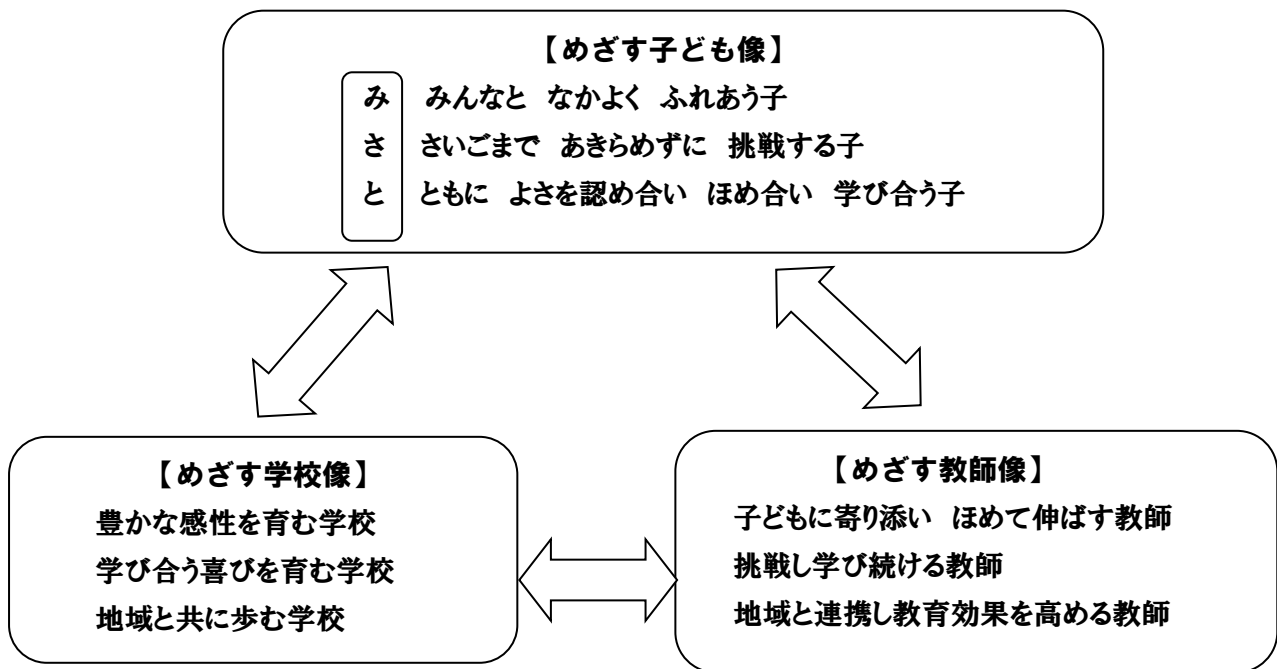
自分の課題解決や目標達成のために、難しいこと、きついこと、苦しいことにも挑戦し、最後まで全力を尽くすことができる。

一人ではできない課題に対して、仲間と共に励まし合い、協力し合っ
て取り組むことができる。

きらり
かがやく

互いのよさを素直に認め合いほめ合い、個性や特技を生かしたことに積極的に取り組むことができる。

(3) めざす子ども・教師・学校の姿



(4) 本校教員が意識するキーワード

「創造」「連携（チーム）」「挑戦」

全職員が、それぞれの思いや考えを認め合い、学び合い、磨き合い、それぞれのパフォーマンスを発揮できる環境をつくる一員となり、チーム一丸となって、三里のよさを生かした教育を創り出していく。

(5) 具体的な取り組み

① 学力向上（深い学びへ）

- 校内研究の充実（算数科の指導を中心に研究、話し合い活動による思考力・判断力・表現力の深化）
- 家庭学習の徹底 → 家庭学習十カ条、自主学習のポイント活用
- 読書活動の充実 → 家読の推奨（「みさと・はっぴいぶっく」や「読破賞」の取組）
- ICT利活用教育の充実（Phase 3 Extensionの段階へ）
「誰でも いつでも どこでも 自分らしく 主体的な学びへ」を目指して
→電子黒板や一人一台タブレット PCの有効活用

② 心の教育（認め合い、ほめ合い 自己有用感・自己肯定感を高める）

- 縦割り集団活動を通して、自他の違いに気づき、互いの良さを認め合う関係をつくり、個々の自己有用感・自己肯定感を高める教育
 - ・ 「ほめる」をキーワードに、日常的に良いところを見つけ認める意識を高める
 - ・ 朝立腰の放送後、「きらりみさとっ子」にて善行児童の紹介を毎朝実施
- 人権・同和教育の推進
 - ・ 支え合う学級づくりと「人権教室」の内容充実
 - ・ 「ぽかぽか言葉の木」・「花さきみさと」の取組
- 道徳教育の実践と充実
 - ・ 「教科としての授業づくり」の工夫
- 全職員で全児童を見守り、いじめ・不登校を出さない取組
 - ・ Q-Uテスト結果の活用による学級集団力の向上
 - ・ 「心のアンケート」の活用した未然防止と早期発見、素早い初期対応（即時対応）
 - ・ 「いじめ0宣言」の見直し
- 明るくあいさつ・正しいことば遣いの徹底
 - ・ あいさつは相手を大事にし、相手を認めることにつながる

③ 健康・体づくり（健やかな成長を支える生活リズムの確立）

- 基本的な生活習慣の育成
 - ・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励
 - ・ 家庭教育指針の活用
 - ・ ゲーム機、スマートフォン等の電子情報機器の適切な取り扱い
 - ・ 外部講師によるスマホ・ネット講座の開催
- 食育・給食指導の充実
 - ・ 農業体験活動をとおして、食への関心を育む
- 健康な体づくりの推進
 - ・ 縦割り班による共遊の工夫
 - ・ 朝ランニング・スポーツチャレンジの取組と外遊びの推奨
 - ・ 徒歩による登下校の推奨

④ 業務の改善・教職員の働き方改革の推進（心身の健康、働きやすい職場作り）

- やりがい・働きがい・生きがいを持って元気に働ける職場環境を目指す
- 支援体制がとりやすい組織の見直し（プロジェクトチームによるOJTの取組み）
- 職員の心身の健康が児童の健全な育成・教育へ結びつくことを念頭に置き、適切な勤務時間、勤務内容を常時見直し、働きやすい環境を創る
- ICTを活用した業務や事務作業の効率化

⑤ 特別支援教育の充実・深化（多様性を尊重し、安心して過ごせる環境作り）

- インクルーシブ教育システムのもと、個別最適な環境を作り、自己有用感・自己肯定感を高める教育を実践
 - ・ 専門機関との積極的な連携とインクルーシブ教育研修
 - ・ 特別支援エリアリーダーの適切な活用
- 小規模校のよさを生かして、交流学級との連携をもちろんのこと、全職員で声かけ見守りを実施し、細やかな情報交換・連携を図る

⑥ 教育効果を高める地域・育友会との連携

- 地域への温かな協力に対する感謝
- 教育効果を高める育成会や地域と合意形成のもとでの連携

（6）本校教育の特色

① 地域連携の推進による共育

- 育友会・青少年育成会・三里ふれあい自然塾との連携推進

② 縦割り活動による豊かな人間関係の育成

- 縦割り班活動を通して、リーダー性の育成や異学年による道徳性・よりよい人間関係の育成をめざす。
 - ・ 縦割り班集会（隔週月曜日朝）と共遊
 - ・ 縦割り給食（毎日）
 - ・ 縦割り掃除（毎日）
 - ・ その他の行事（1年生を迎える会、春の遠足、運動会、クリーン作戦等）

③ 幼保小連携・小中連携によるなめらかな接続

- ・ 年2回以上の「幼保小連絡協議会」の開催
- ・ みさとこども園（令和3年度から民間経営）との連携の推進
- ・ 小城中学校との相互参観や情報交換、体験入学などの交流《義務教育9年間を見据えて》
- ☆ 令和8年度から、読み聞かせボランティア（月1回）にみさとなごみ園の保育士を派遣していただけるようになった。

④ ボランティア活動

- ・ 縦割り班によるクリーン大作戦
- ・ ペットボトルキャップ集め
- ・ 募金活動
- ・ 花プランターを三里支館、みさとこども園に設置

⑤ 「みさとはっぴいぶっく」の取り組み

- 平成22年に地域の有志で立ち上がった事業（長野県天龍小学校の取組を視察）
 - ・ 誕生月に本の贈呈
 - ・ 読書活動の充実（家読の勧め）

⑥ 立腰教育の実践

- ・ 毎朝、全校での立腰タイム
- ・ よい姿勢の保持と集中力向上
- ・ 落ち着いた学習環境作り